

神奈川県立秦野曾屋高等学校 学校運営協議会 開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催しました。

会議名称	令和6年度 秦野曾屋高等学校 第2回 学校運営協議会
開催日時	2024/11/13
開催場所	秦野曾屋高等学校 会議室他
出席者	【委員】反町聰之、関野浩子、佐野典文、鳥海靖史、原 憲治、三浦義政、山田浩之、山口正樹、 【事務局】佐藤道和、沼田伊里、甲斐 正、廣重直樹、大町友子、齋藤昂良、綿引俊哉、吉崎慎一郎、川島 聰 高橋秀文、橋本 誠、堀井拓洋
会議資料	令和6年度 秦野曾屋高等学校 第2回学校運営協議会
議事録	<p>◎授業観察</p> <p>◎校長挨拶</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板(普通教室に全校配置)に関する説明について ・令和7年度募集定員(変更なし・279名)について ・英検受験者数の増加、福祉教育等の特色教育、地域連携についての説明 ・業務アシスタント(2名体制)、サポートオフィススタッフ(業務サポーター)の活用について ・上級学校訪問・進路状況について ・生徒支援状況について <p>神奈川県全体についていじめの増加傾向、生徒内面の悩みへのアプローチの必要性、サポートドック・いじめアンケートの活用によるきめ細やかな対応について</p> <p>◎各グループの取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援G:研究指定校の取り組み。6月英語(村越准教授の招聘) 11月は全教科にて公開研究授業を実施。吹き出しきん(Jamboardの代替)を利用した研究協議会を実施。今後、地区的グループ5校が小田原高校にて協議予定。アクセスポイントの増強について改善について県へ要求したい。 ・生活支援G:チームでの組織的対応、各種講座を活用した生徒向け研修、教員研修を実施した。 ・生徒会支援G:山岳部が全国大会出場予定。写真部の発表掲載あり。前回の質問、部活動加入率低下について→外部の団体に加入している生徒が増えている。 ・進路支援G:1年クラスで大学を見学していたが、学年で同じ大学(東海大学)を見学を実施。文理に分かれて講座を受け、学食体験を実施。来年度はゼミ体験などさらなる充実を検討。共通テスト18名(昨年比倍増) ・広報情報G:学校説明会について。8月の公私合同は産業能率大学にて実施。見やすいレイアウト。本町公民館で第一回実施。参加人数は例年通り。夏季福祉体験は生徒減少。50→30人。周知の方法が来年度の課題。施設へのフィードバックの件について、体験報告書を各施設に提出できるよう動いている。地域貢献活動、今年度雨天のため中止。 ・管理運営G:防災教育は定期的に実施。DIGを実施。通学路の危険地域を整理するワークを実施。シュミレーションをするなどした、生徒は身近なこととして捉え、主体的に学習していた。環境美化はふれあい美化清掃を実施。第2回11月に実施予定。PTA活動は各委員会で実施。芸術鑑賞会を再開。 <p>◎意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本町地区のきれいなまちづくりを行っている。若い人の意見がほしい。3人現在参加(生徒会本部役員) ・生徒の反応良いと感じた。生徒もあいさつをしてくれていた。のびのびと意見を言える雰囲気が良かった。間違ってもみんなで意見を出して、先生がフォローする空間がきつけている。安心して失敗できる教室だと感じた。 ・電子黒板について、教員の負担が増えているのではないか。これまでの授業のスタイルを変える苦労があるのではないか。 ・高校では教材が丁寧に作られているが、大学になるとノートが作れない、書類整理ができないという壁に生徒があたっているように思える。「聞いて書く」活動をしていた言語文化の授業がよかったです。 ・概念的な理解ができない学生が多い。ていねいなプリント学習も、断片的な理解には役に立つが、自身での主体的に概念的な理解に繋がりにくい。 ・進路関係。高校時代に精神面で苦戦している学生には合理的配慮を私大も行っている。 ・大学では入学前相談にて対応している。大学に入ってからの対応ではすぐに破綻する。福祉に係る興味が増えていくと良い。